

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

(H27.4.30現在)

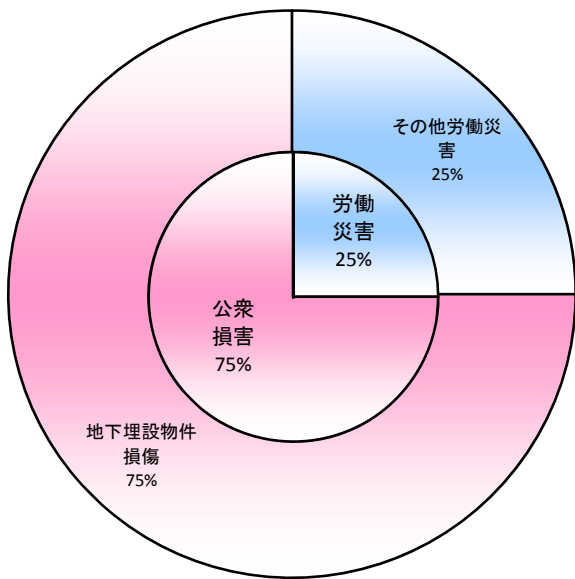
注5)平成27年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

4件

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成22年度	5	15	20	30	35	40	50	55	60	70	75	78
平成23年度	5	10	18	20	25	30	38	45	52	58	65	75
平成24年度	5	10	15	25	30	38	50	60	75	78	78	85
平成25年度	5	8	18	22	25	32	38	48	58	63	72	78
平成26年度	2	8	12	15	20	25	30	40	42	48	60	70
平成27年度	2	5	10	15	20	25	30	35	40	45	55	65

[illegible]

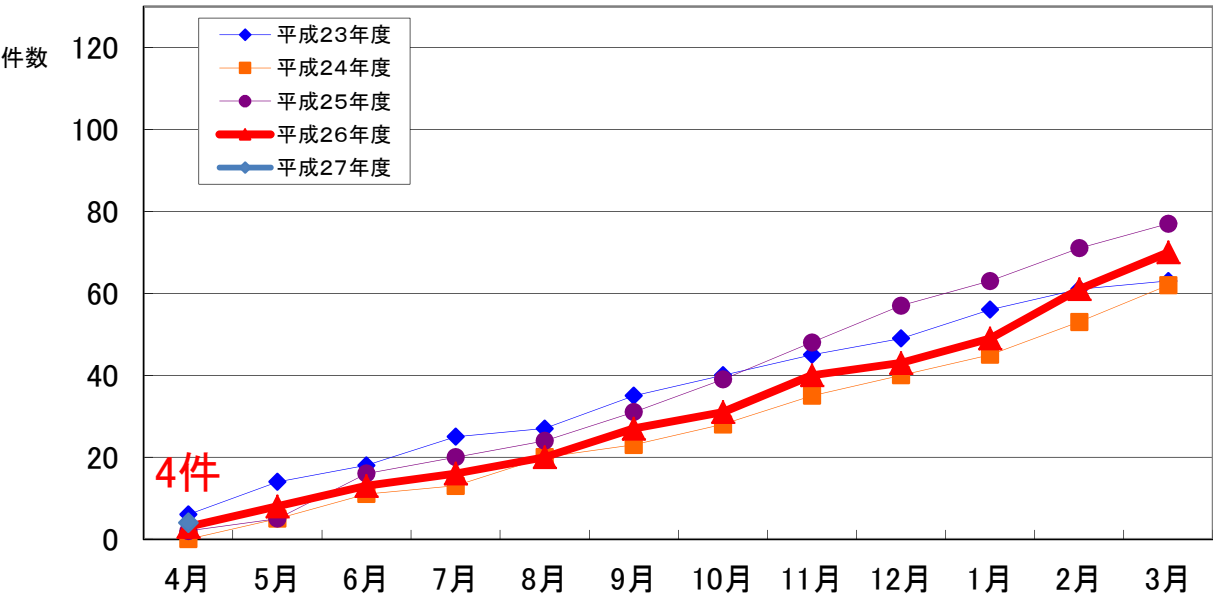
●平成27年度 工事事故発生状況(発生形態別)



	発生形態	H25	H26	H27	過去3年間計
労働災害	建設機械の稼働に関連した人身事故	6	4	0	10
	部材の加工作業等により自らを負傷	5	2	0	7
	資機材等の落下や下敷きで負傷	6	3	0	9
	墜落	6	5	0	11
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	1	0	0	1
	その他労働災害	6	14	1	21
小計		30	28	1	59
公衆損害	架空線・標識等損傷	5	8	0	13
	地下埋設物件損傷	12	6	3	21
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	16	19	0	35
	その他公衆損害	10	8	0	18
	小計	43	41	3	87
その他事故		4	1	0	5
計		77	70	4	151

…H27年度重点的安全対策項目

(参考)工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)

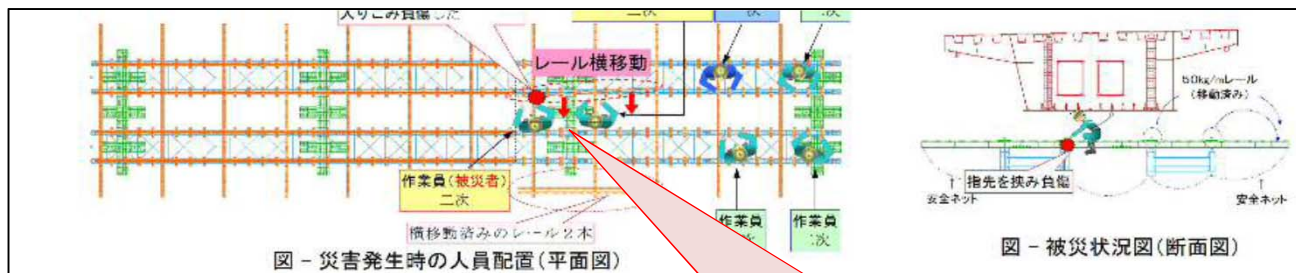


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成23年度 累計 (月毎)	0件 (0件)	5件 (5件)	11件 (6件)	13件 (2件)	20件 (7件)	23件 (3件)	28件 (5件)	35件 (7件)	40件 (5件)	45件 (5件)	53件 (8件)	62件 (9件)
平成24年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	6件 (4件)	8件 (2件)	18件 (10件)	23件 (5件)	31件 (8件)	42件 (11件)	50件 (8件)	63件 (13件)	66件 (3件)	67件 (1件)	74件 (7件)
平成25年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	16件 (11件)	20件 (4件)	24件 (4件)	31件 (7件)	39件 (8件)	48件 (9件)	57件 (9件)	63件 (6件)	71件 (8件)	77件 (6件)
平成26年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	13件 (5件)	16件 (3件)	20件 (4件)	27件 (7件)	31件 (4件)	40件 (9件)	43件 (3件)	49件 (6件)	61件 (12件)	70件 (9件)
平成27年度 累計 (月毎)	4件 (4件)											

■問合せ先:企画部 技術調査課 遠藤・古賀 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 27 年 4 月 14 日 (火) 21 時 50 分			
工事情報	道路系事務所 鋼橋上部工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	56	橋梁特殊工	右母指皮膚欠損創
事故概要	縦取り架設に使用した軌条設備のレールを撤去作業中、レールとH鋼に指を挟まれ、負傷			
	労働災害－その他 工事関係者事故			

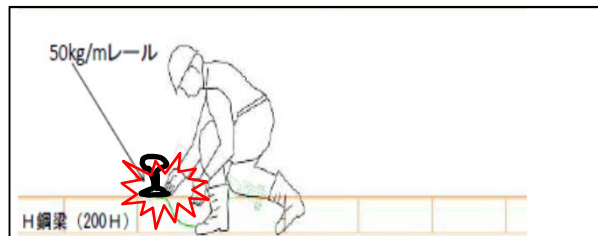
事故発生状況



2人体制で作業



軌条レールの横移動(撤去)をレバーブロックを用い、2人体制で行っていた。



チェーンが緩みフックが外れそうになったのでフックに近づいたところもう1人の作業員がそれに気づかずにチェーンブロックを作動させレールを移動させた際に指を挟み負傷。

・縦取り架設に使用した軌条設備のレールの撤去作業を2人体制で実施していたところ、被災者がレバーブロックのチェーンが緩みフックが外れそうになった。

・その後、被災者がフックを外すため、声を掛けずにH鋼に手をおいてフックに近づいたところ、その状況に気づかなかったもう一人の作業員がレバーブロックを作動させ、被災者の手が、レールとH鋼に挟まれ、負傷

【事故発生原因】

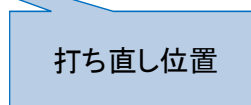
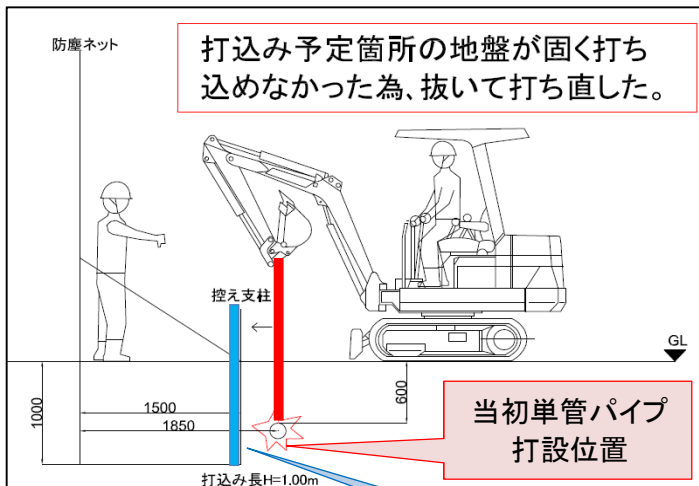
- ・作業員間の連携不足など

【事故防止のポイント】

- ・具体的な作業手順等を十分検討し、作業員間の連携を徹底するなど

発生日時	平成 27 年 4 月 15 日 (木) 10 時 40 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	圃場パイプライン損傷
事故概要	圃場パイプライン直上に防塵ネットを敷設していた際に水道管を損傷。			
	公衆損害－地下埋設物件損傷			

事故発生状況



- ・当初、防塵ネット前面より1.85mの位置に控え支柱(単管パイプL=1.5m根入長L=1.0m)を打設予定であった。
- ・地盤が固かった為単管パイプを引き抜いて防塵ネット前面から1.5mの位置へ打ち直した。
- ・最初の打込み時点で、埋設管を損傷したと考えられる。
- ・後日、通水試験中に、当該箇所から水が噴出。

【事故発生原因】

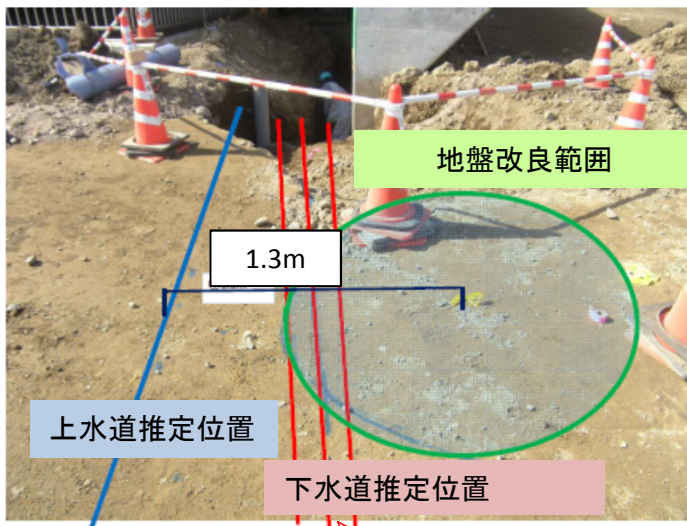
- ・埋設物有無の確認、試掘等をしなかったなど

【事故防止のポイント】

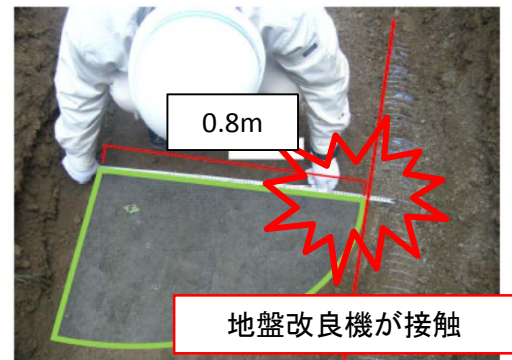
- ・作業前に図面や関係機関への確認と試掘などにより埋設物の有無を把握するなど

発生日時	平成 27 年 4 月 15 日 (木) 17 時 0 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	下水管損傷、土砂混入による閉塞
事故概要	・地盤改良工事において、地盤改良機と下水道管()と接触、破損し、下水道を土砂で詰まらせた。 公衆損害－地下埋設物件損傷			

事故発生状況



上水道のマンホールとマンホールを結んだラインで隔離をとったため、下水道を見落としていた。



- ・地盤改良工事において、地盤改良機と下水道管と接触し、破損した。
- ・地盤改良施工前の下水道管位置確認は、誤って隣接する上水道のマンホールとマンホールを結んで離隔(1.3m)を確認したため、下水道管を見落としてた。
- ・また、下水道管のマンホールはカラーコーン等で隠れていた。

【事故発生原因】

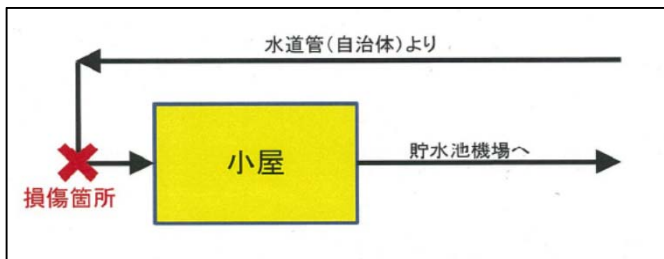
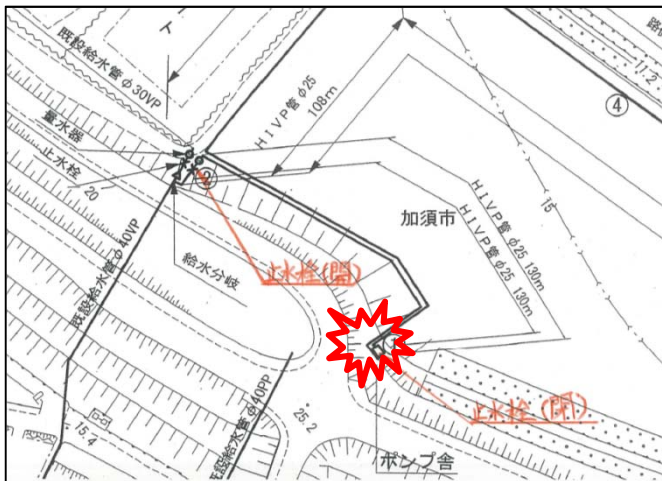
- ・埋設物有無の確認、試掘等をしなかったなど

【事故防止のポイント】

- ・作業前に図面や関係機関への確認と試掘などにより埋設物の有無を把握するなど

発生日時	平成 27 年 4 月 27 日 (月) 10 時 50 分			
工事情報	河川系事務所 維持修繕工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	水道管損傷
事故概要	地下埋設管路を設置するためにバックホウで掘削をしていたところ、貯水池機場の受水槽に給水するための管を損傷。			
	公衆災害－地下埋設物件損傷			

事故発生状況



- ・地下埋設管路を設置するためにバックホウで掘削をしていたところ、貯水池機場の受水槽に給水するための管を損傷。
- ・埋設管の位置が確認されていないのに掘削を開始した。

【事故発生原因】

- ・埋設物有無の確認、試掘等をしなかった
など

【事故防止のポイント】

- ・作業前に図面や関係機関への確認と試掘などにより埋設物の有無を把握する
など